

高木仁三郎市民科学基金 第二回(2002年度)助成 完了報告書

提出日：2004年 5月 28日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	核の「中間貯蔵施設」はいらない！下北の会
連絡先・所属など	〒035-0035 青森県むつ市本町1-1
調査研究・研修のテーマ	『むつ市議会議員「海外先進地視察研修報告書」の検討と批判』

2. 調査研究・研修の経過

- ◇ 2003年3月半ば 海外先進地視察研修報告書をむつ市より入手、分担し検討を開始する。
検討の結果、報告内容には、疑問点が多いので、市と各議員に向け質問を送ることとする。
- ◇ 2003年6月4日 市と視察参加議員へ質問を提出、市と2名の議員からのみ回答が届く。
- ◇ 2003年6月 議員の報告書と回答の内容などから、私たち独自で中間貯蔵施設の事実を市民に知らせる必要があると考え、わかりやすい漫画リーフレットの作成を開始する。
- ◇ 2003年6月27日 10名の議員へ質問を再度送る。回答は来ない。
- ◇ 2003年7月19日 市民向けのリーフレットが完成し、市内全戸配布を始める。
- ◇ 2003年9月5日 未回答の10名の議員へ、3回目の質問を出す回答は届かず。
全市会議員と市内医療関係者へ、リーフレットを渡す。
- ◇ 2004年5月25日 リーフレットの市内全戸配布、終了する。

3. 調査研究・研修の成果

ドイツとスイスの中間貯蔵施設先進地視察に参加した12名の市議会議員の報告書から、既に貯蔵を開始しているドイツとスイスでの貯蔵実態や、周辺への影響、周辺住民の受け取り方などを汲み取ろうとしたが、事業者の主張する立地に伴う利点と安全性を鵜呑みにし復唱するだけであり、事業主体である東京電力の出しているパンフレット以上の内容ではなかった。私たち市民は、ここからは何も得ることはない。

それではちががあかないので、詳しい内容を知るために各議員宛の質問を計3回提出したが、参加12名中10名の議員からの回答は届かなかった。回答のあった2名の文書も、全く回答とは言えない内容であった。つまり、市民の代表として事実を市民に伝えるための視察のはずが、実際にはただ現地を訪れただけで、研修・視察というのはあくまでも建前だったようだ。

また、本来であれば、むつ市行政当局が判断材料として市民に様々な情報を提供しなければならないのだが、それもない。最初から誘致の姿勢をとっているために、市側から提供される情報は常に一方的な宣伝ばかりである。

以上のように、市当局からの情報や、ドイツ(ゴアレーベン)とスイス(ヴューレンリンゲン)の施設視察を行ったむつ市議12名の報告書からは何も得ることができないので、約5万(戸数は約22000戸)のむつ市民に中間貯蔵施設の実態を知らせるために、わかりやすい漫画リーフレットを作成し全戸配布を行うことに決めた。誘致に賛成か反対かを問う前に判断材料である事実を全ての市民に広く知らせること、それが、私たち「核の『中間貯蔵施設』はいらない!下北の会」のまずやるべきことだと思った。

原子力の専門家のアドバイスなども得て完成させたリーフレットは、03年7月半ばから市内全域の個別配布を始めた。地図を見ながら一軒一軒を回り厳寒期の配布活動も経て、2004年5月末に全戸配布を完了した。

私たちのリーフレットには、中間貯蔵施設に関するできるだけ多くの客観的情報を載せているので、今まで知らなかったことがわかったという感想や、マイナス面もよくわかるとの意見が多く寄せられている。また漫画なので見やすいし、馴染みやすい、理解しやすいと、概ね好評である。

漫画リーフレットを作成し市内全戸配布を行ったことで、今までよりもなお一層、中間貯蔵施設を受け入れるか否かの判断材料を、広く市民に提供できたことと思う。

4. 対外的な発表実績

5. 今後の展望

ドイツの脱原発政策を研究している、東北大学大学院の青木聡子さんを招いての勉強会を7月4日に開くことにしている。この勉強会は県内の2つの市民グループとの共催として実施する予定でいる。

青木さんのお話からは、議員の報告書には全く書かれていなかったドイツの中間貯蔵施設の実態や周辺住民の様子などを、詳しく知ることができると思う。こうして得たことを、更に市民に広く伝えなければならないと考えている。

昨年夏に市長は中間貯蔵施設の誘致受け入れを表明したが、今後は緒手続きが必要であり、着工までにはまだ年月がかかる。その間に、中間貯蔵施設の問題点やその影響などを、原子力問題の専門家ではなく利害関係もない一市民の立場で捉えて、広く市民に提供していく予定である。誘致か否かの論議を、改めて巻き起こす材料となるようにしていきたい。

高木基金への意見